

全日本学生柔道体重別選手権大会に出場して

電気電子工学科1年 山田 海飛



できましたが、個人戦では県大会の準決勝で年が一つ下の人（後のインターハイチャンピオン）に僅差で破れ、自力で全国大会に出場することはできませんでした。

嘉穂高校柔道部

柔道を始めたころ

このたび、多くのご支援を得て全日本学生柔道選手権に出場しました。小学1年生の頃から近所の戸畑道友会で柔道を始めました。更に上のレベルで柔道がしたいと思った私は、全国でもトップクラスの実力を持つ八幡東区の大蔵中学校に入学しました。50人近くいた部員の中で、たった5人のレギュラーに入るのは体の小さかった私にはとても難しく、毎日毎日勝つことだけを考えた柔道漬けの3年間を過ごしました。最終的にレギュラーに入ることができ、団体戦では全国大会に出場することが

できましたが、個人戦では県大会の準決勝で年が一つ下の人（後のインターハイチャンピオン）に僅差で破れ、自力で全国大会に出場することはできませんでした。

私はもし中学で柔道に関して十分納得のいく結果が得られたら、高校は進学校に進学し、学業に専念して九州工大に入学しようと考えていました。九州工大に進学することを幼い頃から思い描いていたのには理由があります。両親、祖父母の飲食店が九州工大の近くにあり、またそこで働いているアルバイトの方々が九州工大生ばかりでした。その方々の姿、また進路やされていることを近くで見ている、この人たちがみたいになりたいと思ったことが一番の理由です。しかし、全国大会に行けなかった私は、文武両道を目指すことにし、どちらも諦めずにすむ嘉穂高校

に入学することにしました。私以外の嘉穂高校柔道部員はすべてスポーツコースの生徒でしたが、その中で私は普通科に入学し、また柔道部の寮に入って、親元を離れて3年間柔道と勉強に取り組みました。どちらも負けたくない私でしたが毎朝5時からある朝練、稽古や合宿の中で徐々に学業成績は落ちていきました。柔道が生活の中心になっていく中で、負けたくない、日本一になりたいという気持ちが大きくなっていききました。両親に浪人してでも九州工大に進学し、かつ柔道で成績を残したいと頼みこみました。結果、柔道の81kg級個人戦で二度の福岡県チャンピオンと九州大会3位、また全国5位という成績を残すことができました。

九州工業大学入学

血の滲むような努力をして5位だったのだから、もう自分にはこれ以上の成績は残せない、と感じた私は、柔道はこれで終わりにして勉強に専念することにしました。ですがやはり、九州工大は簡単に入学できる大学ではなく、前期後期ともに不合格でした。それから北九州予備校

に入った私は九州工大に入りたいたい一心で毎日14時間もの勉強をこなし、なんとか合格を掴むことができました。そして大学では他にしたいこともなく、おのずと柔道部に入りました。そしてもう一度できる所まで柔道がしたいと思い、折尾にある九州共立大学にも現在出稽古に行っています。

最近の試合成績

最近の試合成績をご紹介します。6月11日に行われた福岡県ジュニア柔道体重別選手権大会（81kg級）で準優勝し、7月2日に行われた九州ジュニア柔道体重別選手権大会に出



日本武道館前にて

場しました。また、8月20日に開かれた全国国立工業大学柔剣道大会では団体戦は6連覇、個人戦ではオール一本で優勝しました。そして9月3日に行われた九州学生柔道体重別選手権大会（81kg級）で準優勝して、10月1日に日本武道館で行われた全日本学生柔道体重別選手権に出場しました。2回戦で東海大の藤岡選手に延長戦の末に破れました。また藤岡選手は準優勝しました。応援いただきました九州工大柔道部の久門監督から、終始優勢であったのに誠に残念であったとコメントをいただきました。

全日本学生柔道体重別選手権での様子

本大会は東京の日本武道館で開かれ、また前日に講道館で計量がありました。日本武道館はテレビでもよく見る六角形の大きな会場で靖国神社の隣にあります。この日本武道館には独特な威圧するような雰囲気がありました。高校時代に来たことがありましたが、高校時代に来たことがあり独特な雰囲気があることも知っていたので、会場の威圧するような雰囲気に飲まれることもなく、落ち

着いて試合をすることができました。試合の前日もよく眠れてベストコンディションで試合に臨むことができましたが、単身で会場に来ていた私は様々なことを一人でこなさなくてはならないことも多くあり、色々大変ではありました。全日本学生柔道体重別選手権では柔道指導資格B級以上の所有者でないと、選手の付き添いが認められていません。おかげで、これまで誰かが身近でサポートしてくれる恵まれた環境にいたこと、そのサポートの大きさ、環境の裕福さに気づくことができました。

内容としては1回戦はシードで2回戦で前述したとおり藤岡選手に延長線の末破れました。私としては稽古次第、トレーニング次第では更にも上を目指せるという確信を得ることができ、また自分に現在足りてないものもわかったので結果以上に得るものも多かった試合となりました。今回この様な大きな試合に出場することができたのも諸先生、先輩方のおかげであります。今後の成績でこの恩を返すことができるよう、また一から努力していきたいと思っております。



観客席から見た様子



開会式中



日本武道館内の様子



初めてのスポンサーゼッケン付き道着



試合中